

2 現状を把握する

【研修手法・ワークシート】

○ 児童生徒の現状を把握するための観点

観点A 一連の時間軸に着目する



取り組みの前後で児童生徒の変容や実施（活動）の様子を把握することができる。

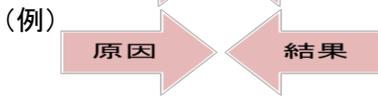


1 単位時間の授業の流れに沿って、児童生徒の様子を把握する場合に有効である。

観点B 対になる概念に着目する



成果と改善すべき点を把握することで、課題が明確になり、次への取り組みにつながる。



結果だけではなく、その結果の背景となる原因と関連付けて把握することができる。

観点C 分野や組織に着目する

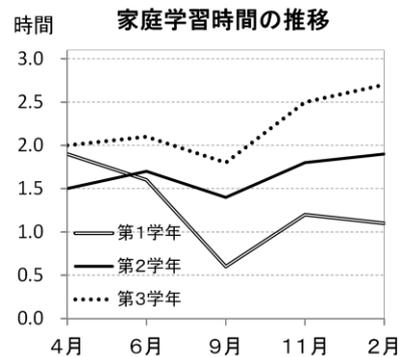


様々な分野ごとの現状を並列で見ること

で、課題のある分野を把握しやすくなる。障害部門や普通科・工業科などの組織ごとに、児童生徒の現状を把握することができる。

《「見える化」の意義と項目の例》

校内研修の場で取り上げる児童生徒に関する情報として、教職員の経験や知識に基づくものが多く見られます。これに加えて、数値化した資料やグラフ等を取り入れることが重要です。これにより、客観的な分析ができ、目指す方向や取り組みの重点など、共通理解を図りやすくなります。ただし、数値を取り上げる際には、その高低に一喜一憂するのではなく、その数値をどのように解釈するかということが大切です。（例えば、児童生徒の課題意識が高度になったので、自己評価が辛くなったなど）なお、グラフとしては、折れ線グラフ（上のグラフ参照）やレーダーチャート、散布図などを用いることができます。



ー児童生徒の現状に関する「見える化」の項目の例ー

- 学力・学習状況調査結果 出身校園別児童生徒数 家庭学習時間 児童生徒授業評価
- 図書室利用者数・貸出冊数 挨拶運動実施回数 欠席・遅刻者数 保健室利用者数
- 教育相談件数 入部率 いじめ・暴力行為等発生件数 交通指導件数 卒業時進路状況

○ 観点を組み合わせたシート

一つの観点でシートをつくって現状を把握することもできますが、複数の観点を組み合わせてシートをつくることもできます。次の三つのシートは、その例です。

マトリックスのシート

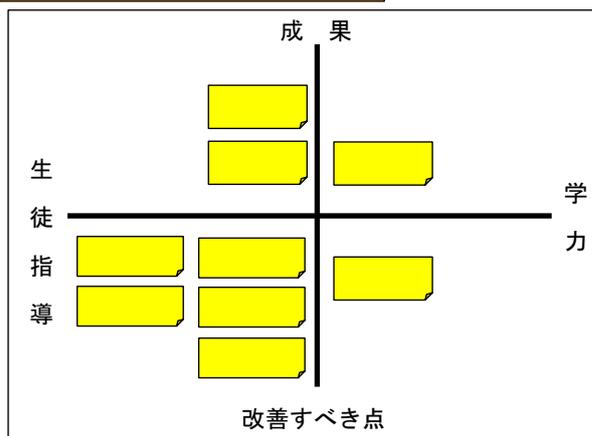
(観点Aと観点Cの組合せ)

	教科指導	生徒指導	進路指導
平成 21年度	1..... 2.....	1.....	1..... 2.....
平成 22年度	1..... 2.....	1.....	1.....
平成 23年度	1.....	1..... 2.....	1..... 2.....

マトリックス (Matrix) には「格子」という意味がある。縦と横にそれぞれ観点を決め、縦と横に組合せたマス目ごと記入するものである。例えば、時間軸と分野の組合せでシートをつくると、時間の経過や取り組みの前後で、どのように状況が変化したかについて、分野を対比させながら把握することができる。

座標軸の入ったシート

(観点Bと観点Cの組合せ)



集めた情報を、座標軸を使って整理するものである。各象限に貼られた付箋紙の多少によって、成果や改善すべき点がどの分野に集中しているか、全体的な傾向を視覚的に把握しやすい。全体的な傾向を把握した上で、各象限間の相関を見ると、より詳細な現状把握ができる。横軸に「児童生徒、教師」や「個人、学校（組織）」をとることもできる。

SWOT*分析シート

(観点Bと観点Cの組合せ)

分析するテーマ：	
内部環境の強み (Strength) [] []	外部環境の機会：支援的要因 (Opportunity) []
内部環境の弱み (Weakness) [] []	外部環境の脅威：阻害的要因 (Threat) []

* SWOTとは、強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の頭文字の組合せ。

学校の内部環境を強みと弱み、学校を取り巻く外部環境を機会：支援的要因と脅威：阻害的要因に分類・整理することで、学校の外にも視野を広げて現状を把握することができる。強みと機会を生かした学校の特色づくり、弱みと脅威を克服するための解決策を検討することもできる。なお、SWOT分析は、分掌組織や個人を対象として行うこともできる。

※ これらの観点やシートは、現状を把握するだけでなく、他の研修でも活用することができます。

＜研修の位置付け＞

校内研修に取り組む際には、学力や集団の人間関係など、児童生徒の現状に関する様々な情報を集め、協議しながら分析して現状を適切に把握することが大切です(現状の把握)。児童生徒の現状に即した校内研修を行うことで、教育活動の成果をより高めることができます。

ここでは、生徒指導と学力向上に力を入れている学校を想定して、現状を把握する研修を、座標軸の入ったシート (p. 6) を使って進める事例を紹介します。

【目的】 児童生徒の生徒指導と学力に関する現状について把握し、全体で共有することで、児童生徒の現状に即した教育活動につなぎ、その成果をより高める。

【到達点】 児童生徒の生徒指導と学力に関する現状について把握し、全体で共有する。

【準備物】 模造紙 (座標軸の入ったシート (p. 6) を拡大複写したもの) 付箋紙

※ 欠席・遅刻者数や学力・学習状況調査結果など、現状を数値化した資料を準備しておくこと、より協議が深まります。

【進め方】 (80分)

1 児童生徒の現状を考える

・ 個人 児童生徒の現状について、次の4項目を、それぞれ1枚の付箋紙に一つずつ書く。(できるだけ多くの付箋紙に書く。)

ア 生徒指導に関する成果 イ 生徒指導に関する改善すべき点
ウ 学力に関する成果 エ 学力に関する改善すべき点

・ グループ ① 付箋紙を模造紙の該当する象限に貼り分け、一人ずつ書いた内容を、なぜそのように考えたかについて触れながら説明する。

② 各象限に貼られた付箋紙の多少によって、成果や改善すべき点がどの分野に集中しているか、全体的な傾向を把握する。

③ 生徒指導の二つの象限に貼られた付箋紙の内容から、現状としてどのような特徴が見られるか、また、そのような特徴が見られる背景について協議する。

④ 学力の二つの象限についても、③と同様に協議する。

⑤ 児童生徒の現状として見落としていることがないか、改めて考える。見落としているものがあれば、付箋紙に書いて貼る。

⑥ 四つの象限それぞれに見られる特徴が、相互にどのような関係があるか協議する。

2 全体で共有する

・ 全体 ① 全てのグループの模造紙を黒板等に貼る。

(20分) ② グループごとに、模造紙に貼られた付箋紙の分布状況と、協議の内容を説明する。

③ 一つのグループの説明が終わるごとに質疑応答を行う。

3 新たな気づきを出し合う

・ グループ 他のグループの説明を聞いて、新たに気付いたことを出し合う。

(15分)

4 個人で振り返る

(5分) 研修について自己評価し、研修で共有した児童生徒の現状を踏まえて、今後どのような生徒指導や学力向上の取り組みをしていくのか、具体的に書く。